

れきしみち

2. 特別展「生誕 220 年 広重一雨、雪、夜 風景版画の魅力をもとく」
4. 収蔵品紹介「ヨコハマのパン屋さん精月堂」
5. 新連載「懐かしの写真 昔ものがたり」
6. 夜の博物館にワクワク！「ナイトミュージアム」
7. 安祥文化のさとではたらく人たち・イベント紹介
8. 夏休み行事紹介、市民ギャラリーよりお知らせ

2017.07
No.105



特集：生誕 220 年 広重一雨、雪、夜 風景版画の魅力をもとく

写真中央：東海道五拾三次之内 日本橋 朝之景



夏休みは歴史博物館・埋蔵文化財センター・市民ギャラリーに行こう！

歴史博物館

● 夏休み自由研究相談会

歴史の自由研究を考えている方に、研究の進め方や参考になる本の探し方など、学芸員が相談にのります。親子参加も歓迎です。
〔日時〕7月28日(金)・29日(土)・30日(日)
10:00～15:00

〔場所〕歴史博物館
エントランスホール特設会場

〔対象〕小学3年生～中学3年生まで
※当日先着順で受付をしますが、事前に日時を予約することもできます(7月15日(土)から電話受付)。希望する日時、調べたいことなどを電話で歴史博物館へ。
〔申込み・問合せ〕

安城市歴史博物館 ☎0566-77-6655

埋蔵文化財センター

夏休み子ども考古学講座

● 古墳時代の鏡づくり

弥生時代から古墳時代の青銅製品や銅鏡について学び、低熔点合金を使って、ミニチュアの内行花文鏡をつくります。
〔日時〕7月22日(土)・23日(日) 13:00～16:00
〔場所〕埋蔵文化財センター創作実習室
〔対象〕小学4年生～18歳
〔定員〕各10名(先着順) (参加費)300円

● 家族古墳ミステリーツアー

安城市内の二子古墳、姫小川古墳等をバスにて巡回見学します。
〔日時〕7月28日(金) 13:00～17:00
〔集合場所〕市民ギャラリーエントランス
〔対象〕小中学生家族(親子など2人1組)
〔定員〕9組18名(先着順) (参加費)2人1組500円

〔申込み〕6月23日(金)9:00～電話で受付開始(月曜日休館・7/17(月)は開館)
〔申込み・問合せ〕安城市歴史博物館内文化振興課文化財係 ☎0566-77-4477

● 考古学スイーツづくり

古墳や発掘調査で出土したものをかたどって和菓子のねりきりを作しましょう。
〔日時〕7月29日(土) 13:00～16:00
〔場所〕歴史博物館体験学習室
〔対象〕小学4年生～18歳
〔定員〕15名(先着順) (参加費)300円

● 縄文時代の石器づくり

縄文人も使っていた下呂石やサヌカイトで矢じりやナイフを作しましょう。
〔日時〕8月6日(日) 13:00～16:00
〔場所〕埋蔵文化財センター創作実習室
〔対象〕小学4年生～18歳
〔定員〕20名(先着順) (参加費)300円

市民ギャラリー

● 絵柄の切り抜きでオリジナルグッズ作り～デコパージュ体験～

デコパージュとは薄い紙に描かれた模様を切り取り、専用液で貼り付けてデコレーションする技法のことです。小物を美しく飾ってみましょう。

〔日時〕8月12日(土) ①10:00～12:00 ②13:30～15:30

〔場所〕市民ギャラリー創作実習室
〔講師〕藤井宏美氏、伊藤沙耶花氏(Sweet Roseハンドメイド教室)

〔対象〕4歳以上 ※未就学児は保護者同伴

〔定員〕各回14名(参加費)500～800円

〔申込み〕7月30日(日)必着

〔講座共通事項〕 イベント名称・希望の時間・〒・住所・氏名・フリガナ・電話番号・年齢を記入の上、ハガキかFAX(1枚で2人まで応募可)、または市民ギャラリーホームページからお申込みください。定員を超えた場合は抽選とします。【安城市民ギャラリー】〒446-0026 愛知県安城市安城町城堀30番地 TEL: 0566-77-6853 FAX: 0566-77-4491

● 空中に絵を描こう！3Dアートペン体験教室

ペン先からプラスチックを溶かし出し、冷めて固まることで、立体を描くことができる3Dペンを体験しましょう。簡単な作品テンプレートから、それぞれ自由に選んで制作します。大人も参加出来ます。

〔日時〕8月26日(土)

①11:00～12:00 ②13:30～14:30 ③15:00～16:00

〔場所〕市民ギャラリー創作実習室

〔講師〕3Doodler(スリドドッラ)運営スタッフ

〔対象〕5歳以上 ※8歳未満は保護者同伴 〔定員〕各回10名

〔参加費〕500円 〔申込み〕8月16日(水)必着



安城市民ギャラリーよりお知らせ

市制 65 周年記念事業
日本・デンマーク国交樹立 150 周年記念
ハンス・クリスチャン・アンデルセン展



世界的な童話作家ハンス・クリスチャン・アンデルセンの生涯と芸術の世界を紹介します。

〔開催期間〕平成 29 年 7/27(木)～8/13(日)

〔時間〕9:00～17:00

〔休館日〕7/31(月)・8/7(月)

〔観覧料〕200円(中学生以下無料)

安祥文化のさと

安祥文化のさととは安城市にある松平氏四代50年の居城跡を整備した安祥城址公園一帯の名称です

〔全館共通事項〕

住 所 / 〒446-0026 愛知県安城市安城町城堀 30 番地

休館日 / 毎週月曜日(祝日の場合は開館)、年末年始(12/28-1/4)

URL / <http://ansyobunka.jp/> 安城市歴史博物館

安城市歴史博物館
開館時間 / AM9:00～PM5:00
TEL: 0566-77-6655 FAX: 0566-77-6600

安城市民ギャラリー
開館時間 / AM9:00～PM5:00
TEL: 0566-77-6853 FAX: 0566-77-4491

安城市埋蔵文化財センター
開館時間 / AM9:00～PM5:00
TEL: 0566-77-4490 FAX: 0566-77-6600

安祥公民館
開館時間 / AM9:00～PM9:00
TEL: 0566-77-5070 FAX: 0566-77-6062

※スケジュールや内容が変更になる場合がございます



生誕 220 年

特別展

広重

- 雨、雪、夜 風景版画の魅力をもとく -

【会期】平成 29 年 7 月 22 日 (土) ~ 9 月 3 日 (日)

前期：7 月 22 日 ~ 8 月 13 日「広重の旅」

後期：8 月 15 日 ~ 9 月 3 日「風景絵師広重」

観覧料 500 円 (中学生以下無料) ・前後期セット券 700 円

文責 野上真由美

1 広重の生い立ち



歌川広重は寛政九年（一七九七）に、江戸八代洲河岸定火消同心の安藤源右衛門の子として生まれました。幼名を徳太郎といいました。一三歳で両親を亡くし、文化八年（一八一）一五歳で歌川豊広の門を叩き、絵師として身を立てることを決意しました。翌九年には「広重」の名を与えられました。広重は狩野派や洋風表現などさまざまな様式を咀嚼して独自の表現方法を追求していきました。

2 保永堂版 東海道五拾三次之内



広重を一躍人気絵師として世に知らしめた作品がこの保永堂版「東海道五拾三次之内」です。

江戸時代後期に江戸庶民の間で旅行ブームが沸き起こり、数々の名所図会や道中記などが出版されました。そして享和二年（一八〇二）から出版された十返舎一九の『東海道中膝栗毛』が大ベストセラーになると、東海道の旅が注目されるようになりました。その流行に目を付けたのは当時新進の版元であった保永堂の竹内孫八でした。保永堂は名所絵師として頭角をあらわし始めていた広重に白羽の矢を立て、天保四年（一八三三）

3 木曾海道六拾九次之内



天保年間には広重は次々と新しい揃物を刊行しています。「木曾海道六拾九次之内」もこの時期に中山道の各宿場を広重と溪斎英泉の二人が分担して描いたものです。

江戸つ子にとって馴染みが薄く、ほとんど山間の景色である中山道を、広重は雨、夜、霧などのモチーフを巧みに用いながら描きました。名作と評される作品も多く、「木曾海道六拾九次之内」は保永堂版「東海道五拾三次之内」と並び、広重の代表的な風景版画のシリーズとなったのです。

4 江戸・諸国・伊勢



広重は、風景絵師として全国の名勝名跡や街道宿場風景などさまざまな作品を描きました。嘉永六年（一八五三）には日本全国の名所風景を描いた揃物「六十余州名所図会」を刊行しました。晩年には、自身が生涯を過ごした江戸の名所を描いた豎絵の揃物「名所江戸百景」を手がけます。全一〇〇図に及ぶ大作で広重の代表作の一つにも数えられますが、広重は完結を目前に安政五年（一八五八）九月五日にコレラに罹り六二歳で他界しました。「赤坂桐畑雨中夕けい」など一部の作品は弟子の二代広重（重宣）が作画に関わっています。

東海道に五三ある宿場に日本橋と京都を加えた五五枚の揃物を刊行しました。このシリーズは大ヒットとなり、広重は三十代半ばで一躍人気絵師となったのです。

「東海道五拾三次之内」は各宿場の情景を描いていますが、その中で印象的な作品には、雨、雪、夜などをサブテーマにしているものが多くあります。

「雨の画家」とも言われる広重は、雨の描き方に長けていました。代表作「庄野白雨」では夏の夕暮れの急なにか雨が降る様子を、人々が慌てて駆け出す様を描くことによりあらわしています。同じ雨でも「土山春之雨」では、まだ冷たい春の雨が長く降り続く様子を、肩を落としながら歩を進める大名行列の一行を描くことで巧みに表現しています。



東海道五拾三次之内 庄野 白雨



木曾海道六拾九次之内 長久保

今回の展示では、保永堂版「東海道五拾三次之内」全揃を会期中一同に展示します。また、前期「広重の旅」後期「風景絵師広重」のテーマで広重が抒情豊かに描いた旅の情景や、名所名跡の風景を紹介します。

また、「ツボが模写したことも有名な「名所江戸百景 亀戸梅屋舗」（後期のみ）ほか、広重が描いた四季の風景を特別展示します。生誕二二〇の今年、本当の広重の魅力を発見してみませんか。



名所江戸百景 亀戸梅屋舗

特別展関連イベント

●特別展記念講演会

「広重が北斎か」

「広重の逆襲」

【日時】7月22日(土) 14時～

【講師】神谷浩氏

【名古屋市博物館館長】

「広重描く美しい風景」

【日時】8月19日(土) 14時～

【講師】前田詩織氏

(中山道広重美術館学芸員)

【定員】80名

●体験講座

「浮世絵を作ろう」

「重ね摺り体験」

(特別協力・中山道広重美術館)

【期間】7月22日(土)～

9月3日(日)

9時～17時

【会場】歴史博物館

エントランスホール

【内容】版材に赤、青、黒色などのスタンピングを絵の具として用い、バレンで摺る

浮世絵の重ね摺り体験をおこないます。

【対象】特別展を鑑賞の方に限りです

【費用】無料



●歴博イベント

夏休みミニコンサート

「音楽で楽しむ広重の世界」

【日時】8月6日(日) 14時～

【会場】歴史博物館

エントランスホール

【出演】

ecru Saxophone Quartet

(エクリュサクソフォーンカルテット)

●市民ギャラリーイベント

「アルミ缶が大変身!？」

「広重作品を作ろう!？」

【日時】8月11日(金・祝)

①10時30分～11時30分

②13時30分～14時30分

【会場】市民ギャラリー

創作実習室

「内容」切り開いたアルミ缶に油性マジックで色を付け、鉄筆でたいて表情をつけます。今回は広重作品に挑戦！完成した作品は、歴史博物館エントランスホールに展示します。

【講師】宇野美紀子氏

(NPO法人CAN缶アート)

【定員】各回30名

【費用】500円

【申込方法】

イベント名称・住所・氏名・フリガナ・電話番号を記入の上、ハガキ FAX (1枚で2人まで応募可)

または市民ギャラリーホームページからお申込みください。定員を超えた場合は抽選とします。

※7月30日(日)必着

【安城市民ギャラリー】

T 446-0026

愛知県安城市安城町城堀30番地



東海道五拾三次之内 土山 春之雨

広重は、単に名所を描くだけではなく、季節、天候、時間帯などをさまざまに組み合わせ、登場人物の感情を巧みに情景の中に描き出すことによって、長く人々の心を惹きつける作品を生み出しました。

保永堂版「東海道五拾三次之内」で人気絵師となった広重はその後二〇を超える東海道絵揃物を描いています。現在では、版元名や画の特徴によって「行書版東海道」「狂歌入東海道」などと便宜的に通称をつけて区別されます。これらの作品は、版の大小や縦横がさまざまあり、それぞれに見どころが尽きません。



精月堂があった長者町近くの横浜吉田町の絵葉書（明治後期、本館蔵）

ヨコハマのパン屋さん 精月堂



精月堂のパン袋

毎日の食生活に欠かせないひとつにパンがあります。今から一〇〇年前の大正六年（一九一七）、横浜市長者町（横浜市中区長者町）に一軒のパン屋が開店しました。店主は平岩角市といい、今の安城市木戸町の出身でした。収藏品に「BAKERY 和洋菓子各種其他パン」式精月堂平岩と印刷された紙袋があります。角市が長者町に開店したパン屋の紙袋です。

日本のパンの起源は諸説ありますが、今に続くパン屋の流行は幕末に開港した横浜などの港町から広まりました。当初はフランスパンが主流でしたが、居留地に多かったイギリス人の影響から、次第にイギリス流の山型食パンが台頭してきました。

明治期に広まったパン屋は食パンのほかにビスケットなども手がけています。これは保存食として海軍からの需要が多かったといわれています。また東京の木村屋のあんぱんのような菓子パンも登場してきました。当時のパン屋はまだイースト菌を使用せず、自家製の酵母やホップ種・酒種を酵母のかわりに使用しました。菓子パンは、木村屋のように酒種を使用していました。これはあんぱんとの相性もよく、味付けパンの主流でした。

横濱のパン屋は次第に店を増やし組合を設立しました。角市は、明治十九年（一八八六）、碧海郡木戸村で生まれました。一三歳の時に名古屋の和洋菓子平岡屋で奉公します。平岡屋は岡崎市大平町出身の近藤伍三郎が横濱で修行した後、名古屋で開いた店でした。

一八歳のときに角市は横浜のパン屋盛月堂に入りました。盛月堂は海軍にパンを卸していた、パン屋で組合に入っていました。大正六年に角市は独立してパン屋を開店しました。しかし、六年後の大正十二年九月一日、推定マグニチュード七・九といわれる関東大震災がおこり、横浜や東京は壊滅的な被害にあいました。この時に角市も店を失いました。地震の後、一時叔父夫婦のいる三ツ川（安城市藤井町など）で世話になりました。角市が出した葉書によると、店が再開したのは十一月二十七日とあります。同年ですとわずか三か月弱ですが、大正十三年一月二十三日の葉書に「パン製造商精月堂」とみえることから同年のことと思われる。大正十二年まで店名は「平岩商店」でしたが、十一月二十七日の再開を機に店名を盛月堂由来の精月堂に変えたと思われます。これら震災前後のことは

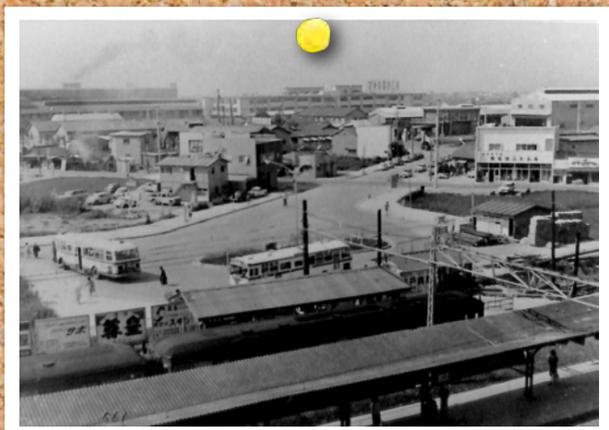
新連載 懐かしの写真 昔ものがたり

文責：岩崎正樹（安城市歴史博物館 館長）

何かのきっかけで、倉庫や棚などを整理したとき、昭和の時代を写した古い写真が出てきたり、さらに明治・大正の時代の写真が出てきたりすることがあります。その写真を見ながら当時の様子を思い浮かべることがあります。今回から安城市の街の様子や建築物、風物が写っている写真を題材に、当時のことを思い起こし、歴史に親しんでいきたいと思えます。



写真① 今村駅構内 [里町町内会蔵]



写真② 今村駅南口方面 [里町町内会蔵]

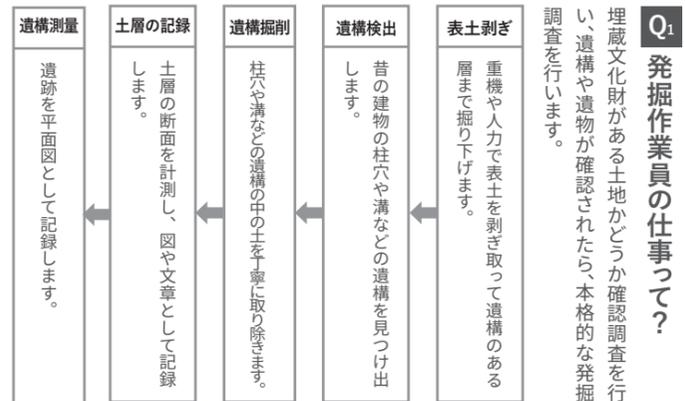
写真①を見てください。これは、今村駅（昭和四十五年（一九七〇）に新安城駅と改称）構内の写真です。現在の駅の様子と比較してみるといろいろな違いを発見できます。駅舎が木造平屋です。現在の駅にあるような南北を結ぶ地下道形式の通路はありません。また、橋状通路もエレベーターもありません。島式三面六線になっているホームまでは、駅構内の軌道を横断し、スロープを上って行きます。写真の奥には田が広がり、線路の南側沿いには民家があります。その向こうには、今はない愛知紡績安城工場が写っています。

さて、今村駅は、大正十二年（一九三三）に完成しています。名古屋鉄道の前身「愛知電気鉄道」が新知立飯駅（後の東知立駅、昭和四十三年（一九六八）に廃止）と西岡崎駅（現、岡崎公園前駅）間の開業時に開業しました。（大正十五年（一九一六）に碧海電鉄が今村駅と米津間を開業）この路線は、今村を東西に分けて線路が進むため、駅をどこに造るかで論争がありました。愛知電気鉄道から出された条件は、駅を

造るのに必要な三千坪の土地は地元の寄付によるというものでした。村の東側と西側の住民の駅建設地の争いは決着がなかなかつかず、やむなく神意を聞くこととなり、神前で抽籤を行うことになりました。その結果西側の住民が勝ったのですが、零細な農民が多く、土地を手放すことができないということになり、東側が受け持つことになりました。東側は他町村の地主が多く容易に話がまとまり、今村駅ができました。駅が造られた場所は、往時の前之池という大きな池があったところでした。写真②は、昭和四十年代初期の今村駅南口方面の様子です。この写真には写っていませんが、地下道の工事が始まったころの写真です。まだ駅からの見通しはよく、写真の奥にはマキタ電機製作所の工場が見えています。手前にはバス停があり路線バスが止まっています。このころは高度経済成長の波に乗り、工場が増大していった時期に当たります。農地が転用されて宅地や工場用地となっていく時期で、駅前が整備され街がますます発展していく

きざしを感じる一枚です。現在では、駅前にはビルが建ち並び、大型商業施設もあります。駅からはマキタの工場が見えなくなっています。そのほかにも駅周辺には、工場だけではなく住宅地も広がり、人口密集地になりました。一枚目の写真の田のころは現在住宅で埋め尽くされています。今村という町名は今はありません。人口が増えたことにより、昭和四十三年（一九六八）今村駅周辺の区画整備を機会に、今村町を四つの街に分割することになりました。今本町、東栄町、今池町、住吉町です。町名については、名鉄線路北側西半分を今村の本町という意味で今本、東半分を東に栄えることを願って東栄線路の南側東半分を池浦町との中間にあるということとで今池、同じく西半分を比較的新しい住宅地ができたところから住みよい街にしようと考えて、住吉と名付けられたといわれています。年配の方の話では、戦前には名鉄本線の北側を流れる西高根用水の南側にはほとんど人家がなかったそうです。そのことからするととても大きな変化です。

安城市内には、およそ 250 か所以上の遺跡があります。
 これらの遺跡を後世に残していくためにも、開発事業などで遺跡が壊される前に写真や図面で記録保存するための発掘調査を行っています。
 今回は、その発掘調査に関わる発掘作業員の仕事を紹介します。



安祥文化のさとして
 はたらく
 人たちが
 埋蔵文化財センター
 「発掘作業員」

安城市歴史博物館の 7月～9月のイベント 要申込

体験講座

体験講座「オリジナル風鈴づくり」

〔内容〕ガラスに自由に絵を描いて、オリジナルの風鈴を作ります。
 〔日時〕7月23日(日) ①10:00～12:00 ②13:00～15:00
 〔会場〕体験学習室
 〔定員〕各25名
 〔費用〕500円
 〔対象〕どなたでも
 〔募集開始〕7月8日(土)9:00～



体験講座「和の心 お香に親しむ」

〔内容〕香木を焚いて良い香りを楽しむお香を、初心者の方にも分かりやすく紐解きます。
 〔日時〕9月10日(日)10:30～12:00
 〔定員〕20名
 〔対象〕どなたでも
 〔費用〕800円
 〔会場〕体験学習室
 〔募集開始〕8月20日(日)9:00～



申込：窓口または電話(0566-77-6655)で(1)講座名(2)住所(3)氏名(4)年齢(5)電話番号(6)参加人数をお知らせください。

NEW ミュージアムショップ新商品



歴博マスキングテープが登場

ミュージアムショップに新商品が登場します！
 歴史博物館オリジナルのマスキングテープです。
 デザインは「安城市歴史博物館」と「人面文土器」をイメージした2種類です。
 スケジュール手帳をデコレーションしたり、プレゼントのラッピングに活用したり、いろいろ使ってみてくださいね。

8/29(火)～9/3(日)の6日間は歴史博物館、市民ギャラリー、埋蔵文化財センターを夜8時まで開館します！
 夜間開館の期間中は様々なイベント、アート企画、博物館ナイトツアーをおこないます。ぜひ夜の博物館にお越しください！

イベント1 博物館ナイトツアー



懐中電灯を持って、夜の常設展示をめぐる。昼間とは違ったドキドキ感をお楽しみに。

〔会場〕歴史博物館2F常設展示室
 〔日時〕8/31(木)、9/1(金)・3(日) ①18:00～②18:30～③19:00～
 〔定員〕各10名
 〔申込〕8/5(土)から電話で受付開始。

イベント2 特別展「生誕220年 広重」夜間展示解説

特別展「生誕220年 広重」の展示解説をおこないます。(観覧料500円が必要、中学生以下は無料)

〔日時〕8/30(水)、9/2(土)いずれも18:30～
 〔会場〕歴史博物館1F企画展示室



ステージ出演

8/29(火) 安城芸妓文化振興会「笑美素会」

安城の芸妓さんによる唄や踊りを披露します。
 〔時間〕18:30～19:00
 〔会場〕歴史博物館エントランスホール



9/2(土) 安城学園高等学校合唱部

合唱曲とハンドベルの演奏で、夏の夜の素敵なひとときをお届けします。
 〔時間〕①18:30～19:00 ②19:30～20:00
 〔会場〕①市民ギャラリーエントランスホール ②市民ギャラリー外 玄関前スペース



光の切り絵展 ～みんなで灯す夢あかり～

光の切り絵作家、酒井敦美さんが描く光と映像の世界を展示します。

〔日時〕8/29(火)～9/3(日)の6日間 9:00～20:00
 〔会場〕市民ギャラリー展示室A・B・C・D・E

野外幻灯

光の切り絵作家、酒井敦美さんがプロデュースし、市民ギャラリー壁面と市民ギャラリー入口付近の地面に光のアート映像を映し出します。

〔日時〕9/2(土)・3(日) 19:00～21:00
 〔会場〕市民ギャラリー壁面、玄関前スペース等

土器ドキ晩ごはん

復元弥生土器でご飯を炊きあげます。弥生時代のご飯の作り方をみんなで体験します。

〔日時〕9/2(土)17:00～19:00
 〔会場〕歴史博物館玄関前スペース
 〔参加費〕1人100円 〔定員〕10組(先着順)
 〔対象〕家族やグループ(1組5名まで)
 〔申込〕8/5(土)から電話で受付開始。

豚汁のふるまい

安城エプロン会さんによる美味しい豚汁のふるまいがあります。

〔日時〕9/2(土)19:00～
 〔定員〕先着150名様(無くなり次第終了)

8/29(火)～9/3(日)

〔申込み・問合せ〕安城市歴史博物館 TEL:0566-77-6655

ナイトミュージアム

夜の博物館にワクワク！

夏休みラストウィークは歴博にGO!

かき氷や甘酒の販売。スーパーボールすくいもあります！お楽しみに！



喫茶「古都」20:00まで営業